

学位論文

「幼児を持つ母親のストレスに関する調査」

—母親に対する夫の期待に焦点を当てて—

DM16012 北里美和

北里大学大学院医療系研究科医学専攻博士課程

医療心理学

指導教授 岩満 優美

著者の宣言

本学位論文は、著者の責任において実験を遂行し、得られた真実の結果に基づいて正確に作成したものに相違ないことをここに宣言する。

要旨

【目的】近年の母親は、少子化、核家族化などの影響により、育児体験の減少、孤立した環境の中での育児ストレスが大きいと言われている。さらに、育児は、誰からも評価されないために、自己価値を高めることによりストレス軽減につながるの難しい、本研究は、他者からの期待に応えることは自己価値を高めるという先行研究より（アトキンソン）母親が、育児に関して夫からの期待に応えることに焦点を当て、“母親が夫から期待されている内容”、“母親が夫からの期待に応じる程度と母親の精神的健康および育児に対する感情”との関係、“母親の夫からの期待に応じる程度とその理由”について検討した。

【方法】＜対象者＞対象者は、A 幼稚園に通う園児の母親 280 名および B 幼稚園に通う園児の母親 180 名である。本研究の分析対象は、研究参加に同意し、質問紙を返信した 140 名（平均年齢±SD=38.9 歳±4.2 歳）である。

＜手続き＞対象者に、以下の質問紙について記入を依頼した。①夫、友人、義理の両親、両親からの母親として期待に応じる、およびその期待に応じることの負担の程度とその回答の理由。家族、友人から、母親として期待されていることに関する自由記述 ②独自に作成した不安、楽しみ、負担、イライラ、落ち込みといった育児に対する感情 ③精神健康度を測定する K6 テスト ④抑圧場面における対処方法を計測する Marlowe-Crowne's の社会的望ましさの尺度。なお、本研究は北里大学医療衛生学部研究倫理委員会の承認を得ている。

＜分析の概略＞母親への夫からの期待の自由記述について要約的内容分析をおこなった。次に、“夫からの期待に応じる程度”と“育児に対する感情得点と K6 得点”のピアソンの積率相関分析をおこなった。さらに母親が夫からの期待に応じる群、やや応じる群、あまり応じない群、応じない群の群に分けて、4つの群ごとにその理由について要約的内容分析をおこなった。

【結果】母親が夫から期待されている内容を質的に分析した結果、“子どもへの取り組み方”“家族との関わり方”“夫との関わり方”の3カテゴリーが抽出された。第2に、母親が夫からの期待に応じる程度と“母親の精神的健康および育児に対する感情”との関係について検討した結果、夫の期待に応じる母親ほど精神的健康度が高く、育児に対する不安、負担および落ち込みが低いことがわかった。最後に、母親の夫からの期待に応じる程度とその理由について質的に分析を行った。夫からの期待に応じる母親は、育児を肯定的に受け止め、夫との関係も良好であったが、一方、夫からの期待に応じない母親は、育児に対して否定的な感情を持ち、夫との関係が良好ではないことがわかった。

【考察】本研究では、以上より本研究では、夫からの期待に応じる程度の高い母親ほど、夫と良好な関係を結び、育児を肯定的に受け止め、精神的健康度が高く、育児に対する不安、負担、落ち込みを感じていない傾向が示唆された。

目次

1. 序論	1
2. 方法	
2-1. 対象者	3
2-2. 質問紙	3
2-2-1. 母親への期待に関する質問紙	3
2-2-2. 育児に対する感情に関する質問紙	4
2-2-3. K6テスト	4
2-2-4. 社会的望ましさ尺度	5
2-3. 手続き	5
2-4. 分析の概略	5
3. 結果	
3-1. 対象者の背景	7
3-2. 母親への夫からの期待の内容	7
3-3. “母親の夫からの期待に応じる程度”と“育児に対する感情 およびK6得点”の関係	8
3-4. 母親の夫に期待に応じる程度とその理由について	8
4. 考察	
4-1. 母親から期待される内容	10
4-2. “母親が夫からの期待に応じる程度”と“育児に対する感情 及び精神的健康状態”との関係	11
5. 今後の課題	13
6. 謝辞	14
7. 参考文献	15
8. 図表	18

1. 序論

近年の母親は、孤立化に加え、育児能力を獲得する機会のないまま母親となり、育児不安や育児ストレスが大きいと言われている。その要因として管原¹は、①核家族化により母親にとって頼りになる子育てのサポート源は夫のみになり、家庭内の子育て支援能力は、大幅に減少することとなったことを挙げている。さらに、②職場から離れた郊外へと住居が移り、新興の地域集団のなかで、見知らぬ隣人に気を使い、サポートを受けることなく子育てをせざるを得なくなったことを報告している。ところが、6歳未満児を持つ夫婦の1日の育児時間は、母親が3時間、父親は39分と父親は母親と比べて極端に短く、母親は父親に比べ、社会からの孤立感を感じながら、長時間、聞き分けのない子どもとひとりで向き合わざるを得ない²。これらに加え、少子化により、母親からみれば年少の子どもの世話を手伝ってくれる年長の子どもがいなくなり、子ども自身にとっては生育歴のなかで兄弟姉妹の子育てを見聞きしたり手伝う機会も少なくなり、「他の子ども」のケアの経験もないまま成長し、子育てに必要なスキルを自然に身に着ける機会に遭遇しないまま親にならざるを得ない¹。母親の育児不安やストレスは、このような母親を取り巻く人や場からの孤立感、自己犠牲や我慢などの拘束感やイライラが生じること、さらに母親を煩わせる子どもの態度により自信喪失が生じることによる毎日の小さなストレスの

積み重ねの結果であると考えられる。こうした子育ての不安、悩みを抱えることが、生活そのものや精神健康状態にも悪影響を及ぼすことが報告されている³⁻⁵。

約8割強の母親が、子育てを負担に思ったり悩みを抱えており、その理由として、6割の母親は、「仕事や自分のことが十分にできない」ことを挙げている。一方、4割の父親は、「子どもとの時間が十分にとれない」ことを育児の悩みとして挙げており、母親と父親で不安や悩みの理由も違ったものとなっている²。

Mirza(2016)は、社会生活を通して努力の成果を測ることができ、目標達成による満足感も得やすかったであろう独身時代と異なり、育児不安に苦しむ母親は、育児中の母親として、子育てが評価されないという悩みを抱えていることを報告している⁶。そのため育児中の母親は、自分の自信を取り戻すため、母親としての評価を他者からの期待に応じることによって得ようとするのが考えられる。期待とは、「何かを実行しようとするときそれができらるだろうという見通し」⁷のことであり Atkinson (1957)⁸は「事象の成功可能性、すなわち期待を動機づけの決定要因の主要なものと考え、人は成功することに満足し誇りを感じる力 (capacity) をもっている」としている。このことから、期待に応じ、成功することは、自己価値を高めることにつながると考えられる。

母親のストレスについては、これまで、社会からの孤立感、そしてそのような状況による焦燥感、思うようにならない子どもと向き合うという拘束感、自由な時間がないという制約感、経済的な不安感など、多くの研究がなされてきた⁹⁻¹⁰。

しかし、母親に対する他者からの期待に焦点を当てた母親の育児ストレスや精神的健康についての研究はほとんどされていない。そこで、本研究では、母親が夫からの期待に応じることに焦点を当て、母親が夫から期待されている内容を明らかにし、“母親が夫からの期待に応じる程度”と“母親の精神的健康および育児に対する感情”との関係、“母親の夫からの期待に応じる程度”とその理由について検討する。

2. 方法

2-1. 対象者

都内の A 幼稚園に通う園児の母親 280 名および都内の B 幼稚園に通う園児の母親 180 名を対象に、質問紙を配布した。研究参加に同意し、質問紙を返信した 140 名（返信率 30%）（平均年齢±*SD*=38.9±4.2 歳）を最終的に分析対象とした。

2-2. 質問紙

2-2-1. 母親への期待に関する質問紙

夫、子どもを通しての友人（以下友人とする）、義理の両親および両親から母

として期待されている内容、期待に応じる程度、およびその負担の程度について調べるために独自に質問項目を作成した。まず夫、友人、義理の両親および両親から母として期待されている内容について自由に記述し、それぞれの期待に応じる程度を“そう思う”から“思わない”までの4段階で評定し、その回答の理由を自由に記述する。つぎにそれぞれの期待に応じることに對する負担の程度を、“そう思う”“思わない”までの4段階で評定し、その回答の理由を自由に記述する。

2-2-2. 育児に対する感情に関する質問紙

育児に対する感情を明らかにするために、Ekman(1971)¹¹の6つの基本的感情とGoldsteen&Ross(1989)¹²の母親の育児負担感を参考に、育児に対する感情として、不安、楽しみ、イライラ、負担、および落ち込みの5項目を独自に作成し、“そうではない(0点)”から“そうである(3点)”までの4段階で評定する。

2-2-3. K6テスト

精神的健康尺度を測る尺度で、米国のKessler¹³らにより開発され、古川(Furukawa,2003)¹⁴によって日本語版が作成された。“全くない(0点)”から“いつも(4点)”までの5段階で評定する。24点満点で、点数が高いほど気分障害、不安障害の可能性が高く、精神的に不健康であることを示している。カットオフポイントは5点であり、9点以上であると、気分障害あるいは不安障害である可能性が高い。

2-2-4. 社会的望ましさ尺度

Marlowe-Crowne の社会的望ましさの日本語短縮版（神村・嶋田、1994）を使用した。この尺度は、自分は道徳的に望ましいとされる行動をとっていると自覚する程度である「道徳性の自覚」尺度と、自己内に望ましくない衝動を否認する傾向の「望ましくない衝動の否認」尺度の2つの下位尺度から構成されており、それぞれ6項目の計12項目である。なお、本研究では、この結果は分析に加えていない。

2-3. 手続き

それぞれの幼稚園の担任の先生を通して幼稚園児の母親に説明書および質問紙を配布し、無記名で回答するよう依頼した。回収は配布してから3週間以内に郵送での返信とし、返信をもって研究参加の同意とみなした。本研究は北里大学医療衛生学部研究倫理審査委員会の承認を得ている。

2-4. 分析の概略

第1に、母親への夫からの期待の自由記述について検討するために要約的内容分析を行った¹⁵。質問紙で得られた自由記述の具体的な内容について、コード化を行い、次に類似するコードを集めて暫定的なカテゴリーを生成した。その後、2名の研究者が加わり、暫定的なカテゴリーを再検討し、3名全員の意見が一致するまで協議を繰り返し、その内容的妥当性を検討した。

第2に、「母親が夫からの期待に応じる程度」の評定ごとに、母親の夫からの期待に応じる群、やや応じる群、あまり応じない群、応じない群の4群に分けて、「精神的健康度および育児に対する5項目の感情」について、「母親が夫からの期待に応じる程度の評価得点」と「K6得点の育児に対する感情の5項目の得点」のピアソンの積立相関分析を行った。対象者の年齢、学歴などの背景については、頻度や年齢(SD)を算出した。

母親の夫からの期待に応じる程度とその理由の関係を検討するため、4つの群ごとにその理由について要約的内容分析を行った¹⁵。質問紙で得られた自由記述の具体的な内容について、コード化を行い、次に類似するコードを集めて暫定的なカテゴリーを生成した。その後、2名の研究者が加わり、暫定的なカテゴリーを再検討し、3名全員の意見が一致するまで協議を繰り返し、その内容的妥当性を検討した。4つの群ごとに総コード数を100%として、カテゴリーとサブカテゴリーの割合をそれぞれパーセントで算出した。

本研究においては、夫の母親に対しての期待の内容とそれに応じる程度のそれぞれの理由の質的分析に焦点をおいたため、友人、義理の両親、両親の母親に対しての質問紙の回答、子育てのストレスに関しての自由記述は使用しなかった。

3. 結果

3-1. 対象者の背景

対象者 140 名の母親の平均年齢 (SD) は、38.9 (4.2) 歳であった。そのうち 80 名 (60%) の母親が無職、18 名 (13%) はパート、常勤は 12 名 (9%) であった。母親の最終学歴は 大学卒が 87 名 (62%)、次いで専門学校 (11%)、大学院 (9%) の順であった。義理の両親との同居は、5 家族 (3%) 両親との同居は、12 家族 (8%) であり、それ以外の家族は、核家族であった。

3-2. 母親への夫からの期待の内容

夫の母親に対する期待の内容を質的に分析した結果(表 1)、頻度の多い順に「子どもへの取り組み方」「家族との関わり方」「夫との関わり方」といった 3 つのカテゴリーが抽出された。「子どもへの取り組み方」の内容は、子育てに専念してほしいという“育児志向” すくすくのびのびと育てるといった“教育”などであり、「家族との関わり方」の内容は、家事、食事など家族の世話といった“主婦志向” 愛情あふれる笑顔でといった“慈愛”などであった。「夫との関わり方」の内容は、夫と分かち合っていてといった“良い関係” 夫が安心して働けるようにといった“サポート”などであった。

3-3. “母親の夫からの期待に応じる程度”と“育児に対する感情および K6 得点”の関係

“母親の父親からの期待に応じる程度”と“5つの育児に対する感情得点とK6得点”の平均得点を算出した(表2)。K6得点においては、140名の平均値が3.41点であり、カットオフポイント値5点以上の対象者は、全体の30%、気分障害、不安障害の可能性の高くなる9点以上は、全体の7%であった。“母親の夫からの期待に応じる群”の母親は、K6得点、育児に対する感情の不安、負担、落ち込みが最も低かった。“応じない群”の母親は、K6得点、不安、イライラ感、負担、落ち込みが最も高かった。(表2)

“夫の母親への期待に応じる程度”と“5つの育児に対する感情得点とK6得点”のピアソンの積率相関分析を行った。“期待に応じる程度”と“育児に対する感情の不安、負担、落ち込み、およびK6”との間に負の相関が認められた。(それぞれ $r = -0.291$, -0.237 , -0.343 , -0.296 , $p < .01$) (表3)

3-4. 母親の夫からの期待に応じる程度とその理由について

“母親の夫からの期待に応じる群”(以降“応じる群”と記載)における理由を質的に分析した結果、頻度の多い順に「夫との関係」「母親としての取り組み方」「子どもの成長」「家族との関係」の4つのカテゴリーが抽出された。「夫との関係」においては、“夫と同じ価値観”であり、“見守り、協力を得ていること”“感謝の気持ちがある”ことが、「母親としての育児の取り組み方」においては、“自分なりにやっている”と育児に肯定的であることが述べられた。「子どもの成長」では、“子どもが良好

に成長している”こと、「家族との関係」においては“家族と仲良く過ごせている”

“自然体でいる”ことをあげている。

“母親の夫からの期待にやや応じる群”（以降“やや応じる群”と記載）における母親

の理由を質的に分析した結果、頻度の多い順に「母親としての育児の取り組み方」

「夫との関係」「子どもの成長」「その他」の4つのカテゴリーが抽出された。「母親

としての育児の取り組み方」においては、“自分なりにやっている”と子育てを肯定

的に述べている一方で“思うようにいかない”と子育てを否定的にとらえたカテゴリー

から構成されていた。「夫との関係」においては、“夫と同じ価値感である”、“基

本的な関係を結べている”と述べる一方で“夫からの負担感がある”といった夫との関

係性に否定的なカテゴリーから構成されていた。「子どもの成長」においては、“子

どもの平均的な成長の姿を見て”と述べている。

“母親の夫からの期待にあまり応じない群”（以降“あまり応じない群”と記載）にお

ける理由を質的に分析した結果、頻度の多い順に「母親としての育児の取り組み

方」「夫との関係」の2つのカテゴリーが抽出された。「母親としての育児の組み

み方」においては、“子育ては思うようにいかない”、“忙しい”といった育児に対し

て否定的であることが、さらに「夫との関係」の内容も、“夫からの負担感”という

否定的なものであった。

“応じない群”（以降“応じない群”と記載）における理由を質的に分析した結果、「母親としての育児の取り組み」「夫との関係」といった2つのカテゴリーが抽出された。「母親としての育児の取り組み方」においては、“感情のコントロール困難”といった育児に対して否定的なものであり、さらに「夫との関係」においても、“基本的な関係ができていない”という否定的なものであった。（表4）

4. 考察

4-1. 母親が夫から期待される内容

母親が夫から期待される内容は、“子どもへの取り組み方”“家族との関わり方”“夫との関わり方”の3つのカテゴリーであり、この3つのカテゴリーに共通していたものは、伝統的な女性性を期待されているということであった。夫からの期待の内容について具体的にみると、子どもの世話、慈愛に満ちた笑顔、愛情、安らぎのなかで見守る、夫との良好な関係、夫を頼って欲しい、サポートをしてほしいというものであった。これらは、夫は外で仕事、妻は家庭といった伝統的な女性性を感じるものである。子どもの抱く父親像は、たくましく強くリーダーシップをとる存在、母親像は細やかな関わりを家庭にする温かく甘えの対象であると Vogel¹⁶は述べているが、本研究の結果もこれを支持し、母親が夫から期待される内容は、依然として伝統的な女性性に関するものであることがわかった。これらの母親のイメージ

は、温かく優しいひとであり、家族を気遣っているという先行研究¹⁶と一致し、夫が母親に抱いている期待は伝統的な女性らしさに関係している結果となった。

4-2. “母親が夫からの期待に応じる程度”と“育児に対する感情及び精神的健康”との関係

本研究では、夫の期待に応じる母親ほど、精神健康度が高く、育児に対する不安、負担、落ち込みを感じていない傾向が認められた。Robertson(2017)は、「親からの期待を高く感じている人間は、期待を肯定的に受容し、アイデンティティ形成が促進される」¹⁷と述べている。一方、「心身の疲労や育児不安は、母親が親としてのアイデンティティを肯定的に捉えることを抑制し、親としての自信のなさや役割からの逃避を促進させる」ことも述べられている¹⁸。本研究においても、夫からの期待に応じる母親は、その期待を肯定的に受容し、母親としてのアイデンティティを構築し、その結果、健康精神度が高く、育児に対する不安、負担、落ち込みは低くなると考えられる。

母親が夫からの期待に応じる理由についてみると、“応じる群”と“やや応じる群”の母親は、育児を“自分なりにやっている”と肯定的に受け止め、“良好な子どもの成長を見て期待に応えている”とも述べていた。一般に、子育てをうまくやれると思うことより、自分の子育てに満足することの方が、幸福感と関連があると指摘されている¹⁹。そのため、本研究の“応じる群”と“やや応じる群”の母親も同様に、育児を肯定的

にとらえ、子どもの順調な成長の姿を見て、夫からの期待に応じていることに対して満足感や幸福感を感じ、その結果、健康的な精神度が高くなると推察される。さらに、“応じる群”と“やや応じる群”の母親は、その理由として“夫と同じ価値観である”、“基本的な関係が結べている”と夫との関係が良好であることを報告している。夫に対する評価の高い母親は、母親役割に対する肯定感が強いとされ、たとえ夫から直接的な育児援助を受けていなくても、同じ価値観で育児をしているという意識があれば、育児負担感は軽減され、健康状態は高くなる傾向がある²⁰⁻²²。本研究の結果はこれらの見解を支持していた。一方、“あまり応じない群”と“応じない群”の母親は、夫からの期待に応じない理由として、“思うようにいかない”“感情のコントロールが困難である”と述べており、育児に対して否定的な感情を持っていた。育児において対処不能感を感じ、育児行動における否定的な認知的評価をした時、育児不安になりやすいが²³、“あまり応じない群”と“応じない群”の母親は、育児を否定的にとらえており、育児に対する不安、負担、落ち込みを感じる傾向にあると考えられる。また、“あまり応じない群”と“応じない群”の母親は、夫との関係を“負担である”、“基本的な関係が築けていない”と感じていた。坂間(1999)²⁴の調査では、夫婦が日常的に話し合う時間が長いほど、妻の育児不安が低いことが示されている。また、育児役割分担の考え方に関して夫婦間の意識の違いが母親の不安度に影響を与えること、家庭内のコミュニケーションの充実が、夫婦相互の育児不安を軽減することにつながることを²⁵を鑑

みると、夫との信頼関係やコミュニケーションが円滑でない“あまり応じない群”と“応じない群”の母親は、育児不安が高まりやすいと考えられる。

以上より本研究では、夫からの期待に応じる程度の高い母親ほど、夫と良好な関係を結び、育児を肯定的に受け止め、精神的健康度が高く、育児に対する不安、負担、落ち込みを感じていない傾向がみられ、一方で夫からの期待に応じる程度の高い母親は、育児に対して否定的で、夫との関係が良好ではないことが示唆された。

5. 今後の課題

本研究は横断的研究のため、夫からの期待に応じる程度と精神的健康度との因果関係については明らかではない。また、対象者が都内にある私立の幼稚園児の母親であったため、未就学児の母親としての一般的な傾向をみることはできないかもしれない。さらには、対象者も少なく、十分な統計的解析を行うことができなかった。今後は、対象者を保育園など違った環境で育児をしている母親にも範囲を広げ、さらに、母親に対する夫からの期待だけではなく、友人、義理の両親、両親といった周囲からの期待に対しても検討していきたい。

6, 謝辞

学位論文を作成するにあたりまして、多くの方々からご指導とご協力を賜りました。

主任指導教授であります岩満優美先生には、大学院入学以来、6年間に渡り、温かく熱心にご丁寧なご指導をいただきました。先生のご助言をいただきまして、学位論文を作成ができましたことを、心より感謝致します。また、発達精神医学におきまして生地新先生、睡眠医科学におきまして田ヶ谷浩邦先生、産業保健医学におきまして田中克俊先生、臨床心理学におきまして深瀬裕子先生のご指導をいただきまして、研究を進めてまいります上で、大変重要なお力添えを承りましたことを、感謝致します。

本研究の調査に貴重なご意見をご記入いただきご参加下さいました幼稚園のお子様たちのお母様方々とご協力いただきました関係者の方々に心より感謝致します。

数々のご助言をいただきました先輩の方々、支えて下さいました同輩、後輩の皆様にご礼申し上げます。

最後に、子育てを終え、新しい世界に足を踏み入れ、戸惑うことの多い日常のサポート、さらに研究に関しましてもアドバイスをしてくれました夫にここに心よりお礼を表したいと思います。

参考文献

1. 菅原ますみ：社会と家族の心理学. 第2版, ミネルヴァ書房, 京都, 2002, p44-77.
2. 厚生労働白書 2017; 3:52,53-8.
3. Chandola T, Martikainen, P, Bartly, M Lahelma E, Marmot M, Kagamimori S. : Does conflict between home and work explain the effect of multiple roles on mental health? A comparative study of Finland, Japan, and UK. *International Epidemiological Association* 2004; 33(4): 884-893.
4. McBride B. A. : Mental health effects of women's multiple roles. *State of the Science* 1988;20(1): 41-47.
5. Medows S. M. The association between perceptions of social support and maternal mental health: a cumulative perspective. *Journal of Family Issues* 2011;32(2): 181-208.
6. Mirza V. Young women and social change in Japan: Family and marriage in a time of upheaval. *Japanese Studies* 2016; 36(1): 21-37.
7. Atkinson J. W. : Motivational determinants of risk-taking behavior. *Psychological Review* 1957; 64(6): 359-372.
8. APA Dictionary of Psychology. American Psychological Association, 353.
9. Kurth E, Kennedy H, Spichiger E, Hosli I, Stutz Z. : Crying babies, tired mothers: what do we know? A systematic review. *Midwifery* 2011; 27: 187-194.
10. National Forum on Childhood Program Evaluation (Maternal depression can undermine the development of young children. *Center on the developing child* 2009; 1-13.
11. Ekman P, Friesen W, V. : Constants across cultures in the face and emotion. *Journal of Personality and Social Psychology* 1971; 17(2): 124-129.

12. Goldsteen L, Ross CE. : The perceived burden of children. *Journal Family Issues* 1989; 10(4): 504-530.
13. Kessler RC, Andrews G, Colpe, LJ, Hiripi, E., Mrozek DK, Normand SL, et al. : Short screening scales to monitor population prevalences and trends in non-specific psychological distress. *Psychological Medicine* 2003; 32(6): 959-976.
14. Furukawa T, Kessler R, Slada T, Andrews G. : The performance of the K6 and K10 screening scales for psychological distress in the Australian National survey of mental health and well-being. *Psychological Medicine* 2003; 33(2): 357-362.
15. Mayring P. Qualitative content analysis. *Forum Qualitative Social Reseach* 2000; 1(2).
16. Vogel, S. : Professional housewife: The career of urban middle-class Japanese women. *Japan Interpretre* 1978; 12(1): 16-43.
17. Robertson CMT. : Goal setting within a tertiary-level early developmental intervention program. *Pediatric child health* 2017;22(4);184-189.
18. 藤田大輔, 金岡緑 : 乳幼児持つ母親の精神的健康度に及ぼすソーシャルサポートの影響 *日本公衆衛生雑誌* 2002;49:305-318.
19. Conrad B, Gross D, Fogg. L, Ruchala P : Maternal confidence, knowledge, and quality of mother-toddler interactions A preliminary study. *Infant Mental Healthjournal* 1992;13:4.
20. Thompson L.,Walker A. Gender in families: women and men in marriage, work, and parenthood. *Journal of Marriage and the Family* 1989; 51(4): 845-871.
21. Feldman R, Granat A, Pariente C, Kanety H, Kuint J, Gilboa-Schechtman E. Maternal depression and anxiety across the postpartum year and social engagement, fear regulation, and stress reactivity. *Journal of the American Academy of Child & Adolescent Psychiatry* 2009;17(2);124-129.

22. McBride B. A, Schoppe S, Rane T. : Child characteristics, parenting stress, and parental involvement; Fathers versus mothers. *Journal of Marriage and Family*, 2002;64(4):998-1011.
23. Bloomfield L, Kendall, S. : Parenting self-efficacy, parenting stress and child behavior before and after parenting programme. *Prim Health Care* 2012;13(4): 364-372.
24. 坂間伊津見, 山崎喜比古, 川田智恵子 : 育児ストレスの規定要因に関する研究. *日本公衆衛生雑誌* 1999 ; 46(4);250-262.
25. Medows S. M. (2011). : The association between perceptions of social support and maternal mental health: a cumulative perspective. *Journal of Family Issues* 2011; 32(2): 181-208.

表1. 母親への夫からの期待の自由記述の内容

カテゴリー(出現個数)	%	サブカテゴリー(出現個数)	出現率	内容		
子どもへの取り組み方(34)	51.0%	育児志向(13)	19.6%	子育てに専念 母親がみるべき		
		教育(11)	16.6%	社会に役立つ子ども すくすくのびのびと育てる		
		しつけ(8)	12.1%	礼儀正しく育てる 社会でのマナーを育てる		
		健康(2)	3.0%	規則正しい生活リズム		
		家族との関わり方(25)	38.6%	主婦志向(7)	10.6%	家事、食事 家にいる
				慈愛(7)	10.6%	愛情を注ぐ 笑顔で
				安らぎ(7)	10.6%	見守る 平穏な日々を送る
自立(1)	1.5%			精神的に自立する		
夫との関わり方(8)	10.6%	その他(3)	4.5%	身内と仲良く		
		良い関係(4)	6.0%	夫と分かち合って 夫を頼ってくれる		
		サポート(2)	3.0%	夫が安心して働けるように		
		自立(1)	1.5%	夫に負担をかけない		

表2. 母親の夫からの期待に応じる程度と各変数間の平均得点とSD

	応じる群 (n=38)		やや応じる群 (n=41)		あまり応じない群 (n=9)		応じない群 (n=7)	
	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD
K6	2.64	3.13	3.37	2.76	4.89	1.41	5.29	3.55
育児に対する感情								
不安	1.14	0.81	1.59	0.72	1.83	0.58	1.71	0.76
楽しみ	2.66	0.52	2.64	0.64	2.75	0.45	2.57	0.54
怒り	2.06	1.71	2.00	0.74	2.00	0.85	2.57	0.54
負担	1.16	1.02	1.51	0.97	1.58	1.08	2.14	0.69
落ち込み	1.04	0.96	1.54	0.93	2.58	2.47	2.14	0.90

表3. 夫の母親への期待に応じる程度と
各変数間のPearsonの積立相関係数

K6	-0.296**
育児に対する感情	
不安	-0.291**
楽しみ	0.004
怒り	-0.05
負担	-0.237**
落ち込み	-0.343**
	* $p < .05$ * $p < .01$

表4. 母親が夫からの期待に応じる程度と理由カテゴリー

群	カテゴリー(出現個数)	%	サブカテゴリー(出現個数)	%	コード	
応じる群 (n=38)	夫との関係(14)	41.0%	見守り、協力を得ている(6)	17.6%	成長の様子をみてくれている お互いを認め合っている	
			同じ価値観である(5)	14.7%	夫婦の会話で察しがつく 毎日夫と会話。意思疎通ができています	
			感謝の気持ちがある(2)	5.8%	ねぎらいの言葉をかけてくれる	
			良好ではない(1)	2.9%	頼ってはいるが、笑ってはいない	
	母親としての育児の 取り組み方(13)	38.0%	自分なりにやっている(9)	26.4%	自分なりに頑張っている 叱ることもあるが愛情をもって育てている	
			精いっぱいやっている(4)	11.7%	できる限りのことをしているから 夫は子どもと関わらず全部ひとりでこなしている	
	子どもの成長(5)	14.7%	子どもの良好な成長を見て(5)	14.7%	すくすく育っている 子どもは年相応にふるまえる	
	家族との関係(3)	8.8%	無理をしない(3)	8.8%	家族と仲良く過ごしている 自然にしていれば期待に応じている	
	やや応じる群 (n=41)	母親としての育児の 取り組み方(25)	60.9%	自分なりにやっている(13)	31.7%	できる範囲内で頑張っている 失敗はあるがほぼできています
				思うようにいかない(5)	12.1%	子育てはそんなに簡単ではない 試行錯誤をしながら日々必死
感情のコントロールが困難(3)				9.7%	思うようにいかないときはいらいらする 浮き沈みがある	
子育てに自信がある(3)				7.3%	子どもと向き合えている	
夫との関係(11)		26.8%	同じ価値観である(5)	12.1%	その都度話し合い、最良の方法で努力 家族の役目に対する価値観が同じ	
			基本的関係が結べている(4)	9.7%	今まで大きなトラブルはない	
			夫からの負担感がある(2)	4.8%	自由な時間もなく動いているのに口うるさい	
子どもの成長(4)		9.7%	子どもの平均的な成長を見て(4)	9.7%	普通に育ち幼稚園に通っている	
その他(1)		2.4%			地方出身者の自分たちより教育環境がいい	
あまり応じない群 (n=9)		母親としての育児の 取り組み方(7)	87.5%	思うようにいかない(6)	75.0%	自信がない 子どもを叱りすぎ
	忙しい(1)			12.5%	日常に追われて意識していない	
	夫との関係(1)	12.5%	夫からの負担感(2)	12.5%	夫の気分、価値観を押し付ける	
応じない群 (n=7)	母親としての育児の 取り組み方(3)	42.8%	感情のコントロールの困難(3)	42.8%	疲れているときは無理 子育ては思うようにいかない	
			夫との関係(2)	28.5%	基本的な関係ができていない(2)	28.5%
	その他(2)	28.5%		28.5%	ダイエットができない	